

カラスガレイ 北西大西洋

Greenland halibut *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

北西大西洋漁業機関 (NAFO) (注) NAFO 条約海域に南北 2 系群あるが、本稿は日本 TAC 枠がある南系群に関する情報。

生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 90 cm・7.7 kg、雌 109 cm・14.1 kg。体長は下顎先端～尾鰭基底、体重は全重量（代表的な成長式及び体重・体長関係に基づく）。
- 寿命：最大寿命は雄 17 歳、雌 33 歳（研究例）。資源評価では 10 歳以上を Plus group として取り扱う。
- 性成熟年齢：雄 9～10 歳、雌 12～13 歳（50% 成熟年齢）。
- 産卵期・産卵場：周年（夏・秋に多い）。グランドバンク・フレミッシュバス（NAFO 海域 3LM）。
- 索餌期・索餌場：秋（10～11 月）に活発。グランドバンク・フレミッシュバス（NAFO 海域 3LM）。
- 食性：魚類（タラ、ゲンゲ、シシャモ、アカウオ等の幼魚）、甲殻類（エビ）、頭足類（イカ）等。
- 捕食者：シャチほか。

利用・用途

食用（生鮮・冷凍）で販売され、惣菜（煮つけ、ムニエル、ソテー、唐揚、刺身）や寿司ネタとして利用。

漁業の特徴

主に着底トロールで漁獲される。NAFO 発足以降 43 年間（1979～2021 年）の平均漁獲量の多い国はカナダ（38%）、スペイン（28%）、ポルトガル（14%）、日本（5%）、ロシア（5%）でこの 5 か国で全体の 90% を占める。

漁獲の動向

本格的な漁業が開始されたのは 1964 年からで、漁獲量は 4,300 トンから 7 年後の 1970 年に 3.7 万トンとなり 9 倍近く急増した。その後 1978～1980 年、1992～1994 年及び 2000～2003 年にあった 3 回の漁獲量ピーク期（平均漁獲量各 3.5 万、5.4 万、3.2 万トン）以外は、減少傾向が続き現在に至っている。最近 5 年間（2017～2021 年）の平均漁獲量は 1.6 万トンで、3 回目のピーク時の漁獲量の 49% と低いレベルにある。

資源状態

最新の資源評価は 2020 年 6 月の NAFO 科学理事会で実施された。本資源評価の目的は、TAC の決定に使用されている管理戦略評価（MSE）のパフォーマンスをレビューすることである。資源評価は MSE のオペレーティングモデル（OM）で使用されている統計的年齢別漁獲尾数モデル（SCAA）及び拡張型 SCAA 状態空間モデル（SAM）により実施された。本資源評価は MSE の OM で合意されたベースケースを用いて実施された。両者による資源評価結果に基づく神戸プロットを図に示した（1975～2019 年）。B は漁獲対象（5～9 歳）資源量。2019 年の資源状態は両モデル共にイエローゾーン（資源量は乱獲状況であるが F は MSY を下回りやや回復傾向）である。資源状態の経年動向は、両モデルで概ね似ているが細かな動きは異なる。その理由は両モデルで設定した仕様の違い（特に親子関係の有無）によるものと考えられている。

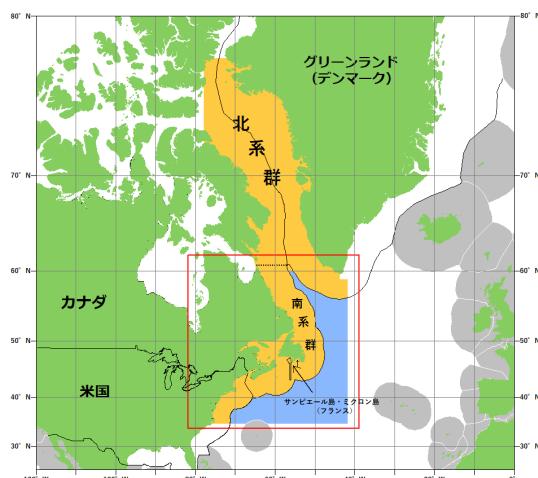
管理方策

主な管理方策は MSE に基づく漁獲管理ルール（HCR）で、2018～2023 年（6 年間）の TAC 決定に運用。2023 年の TAC は全体で 15,156 トン（日本割当 1,151 トン）。その他に、VME（脆弱な海洋生態系）保護のための禁漁海域設置、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30 cm）、網目規制（130 mm）等。

カラスガレイ（北西大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位
資源動向	横ばい
NAFO 海域における世界の漁獲量（最近5年間）	14,600～16,300トン 最近（2021）年：15,000トン 平均：15,693トン（2017～2021年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	1,024～1,253トン 最近（2021）年：1,253トン 平均：1,141トン（2017～2021年）
管理目標	2037年までにB（漁獲対象資源）を B_{MSY} レベルに回復（MSEの管理目標）
資源評価の方法	統計的年齢別漁獲尾数モデル（SCAA）及び拡張型SCAA状態空間モデル（SSM）
資源の状態	神戸プロット黄色ゾーン。B < B_{MSY} （乱獲）F < F_{MSY} （適正）。Bは漁獲対象（5～9歳）資源量
管理措置	MSEの枠組みで設定されたHCR、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30cm）、網目規制（130mm）、VMEの禁漁海域設置ほか
最新の資源評価年	2020年
次回の資源評価年	2023年

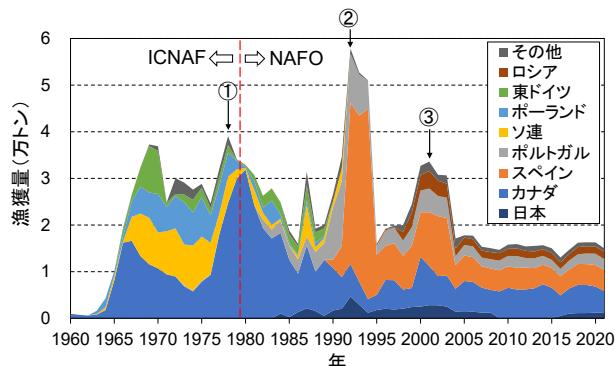
(注) NAFO条約海域（南系群）操業域（統計海域 2+3KLMNO）の情報に基づく



NAFO条約海域=管轄海域（空色）+EEZ（オレンジ色）

(注1) カラスガレイには南北2系群あり、本稿では日本TAC枠のある南系群の情報をまとめた

(注2) 赤枠内の詳細は下図

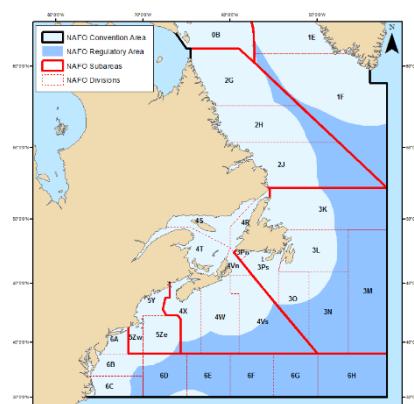


NAFO条約域（統計海域 2+3）におけるカラスガレイ国別漁獲量（1960～2021年）

(注1) ソ連は1991年まで、1992年以降ロシア。東ドイツは1990年まで、それ以後（統一）ドイツの操業はない

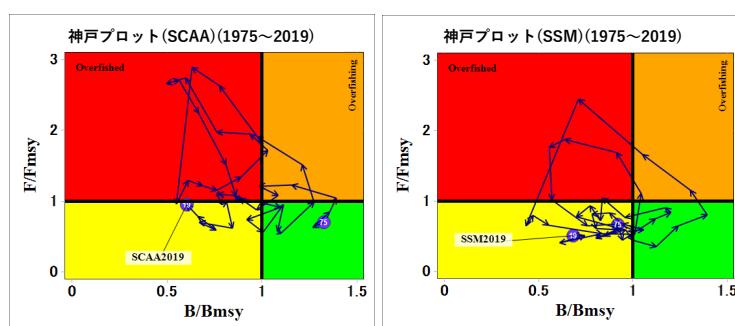
(注2) その他（累積漁獲量順）：フェロー諸島、西ドイツ（1990年まで）、仮領サンビエール島・ミクロン島、ノルウェーほか

(注3) ①、②及び③は、3回の漁獲量ピーク年を示す



NAFO条約海域南部の統計海域

南系群操業域=カナダEEZ内（海域2+3K）+日本ほか加盟国TAC枠のある公海域（3LMNO）



SCAAとSSMによる資源評価結果に基づく神戸プロット（1975～2019年）